

# 都心部におけるバス幹線道路の走行環境改善及び バス100円均一運賃の導入(宮城県仙台市)の概要 (平成14年1月～平成15年12月)

## 背景

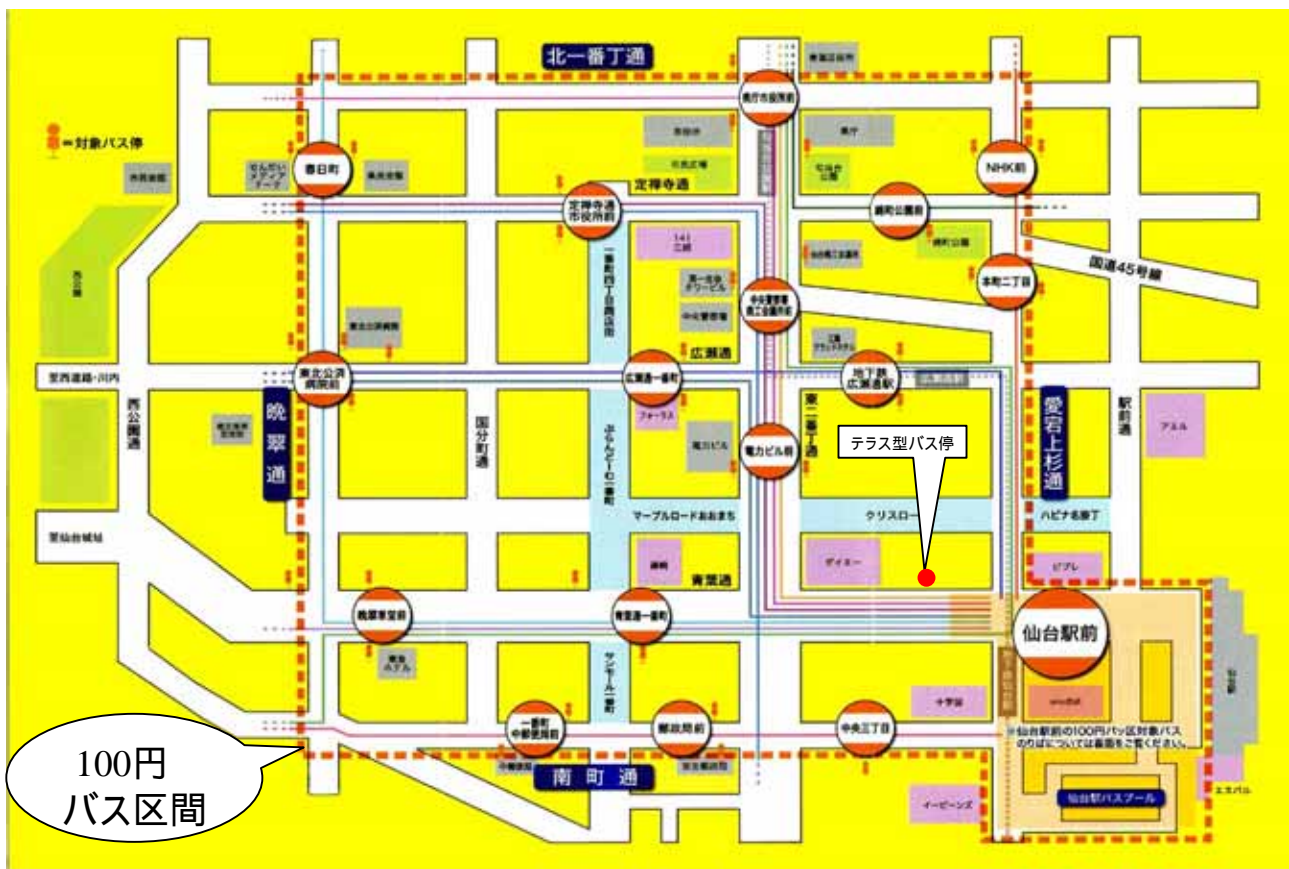
仙台市では、モータリゼーションの進展により交通量が増加し、特に都心部においては商業・業務機能の集積などにより、交通渋滞も発生し、都市環境の悪化が懸念されている。

このため、魅力的で活力ある都心の実現を目指して、過度な自動車利用を抑制し歩行者や公共交通機関を優先した都心空間利用を図る必要がある。

## 実験の概要

JR仙台駅前を発着する既存バス路線の一部都心内区間につき、均一運賃(大人100円、子ども50円)で運行し、公共交通の利便性向上、道路交通の円滑化等について検証を行った。

・運行主体 仙台市交通局、宮城交通株



## 自動車交通調整策

- ・市中心部における違法駐車防止活動
- ・テラス型バス停導入実証実験

## 関係行政機関等によるTDM実験への支援

- ・東北運輸局・東北地方整備局・宮城県警察本部

## 実験の成果

1日当りの利用者数は、対前年比平日1.5倍、土休日1.4倍となった。マイカーからバス・タクシーへの転換は約3パーセントであった。テラス型バス停の導入実証実験(1月20日～2月14日)では、違法駐車が実験時後半には実験前の半分以下となった。交通渋滞については、実験前と比較してそれほど緩和されていない。

**実験終了後も継続運行中(運行区域を拡大)**